

7月豪雨災害を振り返る 3か月経過し 見えてくるもの

まめ知識

- 溢水** 堤防のないところで水があふれること。
- 越水** 増水した河川の水が堤防の高さを超えてあふれ出ること。



大量の災害ゴミ



最上川からの溢水により、これまでにない増水(豊田舟渡地区)



豊田舟渡地区 ～西側を見る～

大石田町初の災害ボランティアセンター設置



山形青年会議所様から 支援物資を受け取るセンター長

自助・共助・公助の助け合いで、温かい雰囲気の中で、ボランティアセンターを運営することができましたこと、お礼申し上げます。

被災後断水になり、衛生面の確保ができない状態で、ボランティアセンター設置が決まりました。感染症予防の観点から、大々的にボランティア募集もできません。それにもかかわらず、大石田町で働く中学校の先生・保育園の先生・建設業協会など直ぐにかけつけていただき、本当に助かりました。

初めて設置したボランティアセンターで、町民の皆様にご不便等があったと思います。今後、同じような災害等は想像したくありませんが、反省点を共有・改善し、整備していきますので、ご教示いただければと思います。

災害ボランティアセンター長 佐藤美保子



高校生ボランティアも大活躍



多くのボランティアに助けられました

豊田区長に聞く

7月28日はどんな一日でしたか。

用事を終え丹生川の堤防を車で通った時、異常な雨で「もしや」と不安がよぎりました。夕方6時頃公民館を開け準備をしました。避難勧告・避難指示の後、サイレンの音が住民に避難する決心を与えたように思います。

舟渡地区14軒全戸が床下浸水になったのですが、豊田全体で公民館には10数名、北小と中学校及び親戚等に100名程度避難しました。しかし、足腰が悪い方や高齢の方など、家の2階に垂直避難した世帯も数件ありました。

区長自身は避難しましたか。

29日午前2時頃まで亀井田橋で川の水位を見ていました。消防団から退避するように何度も言われましたが、区長の立場を考えると近隣の状況を見る必要もあり、避難所に行くことができませんでした。軽率の誤を受ける行為だったかもしれません。その後、家の周辺一帯50センチの深さで水が流れていて「ハッ」としました。ようやく自宅の2階に垂直避難をしました。今でも「ゴー」という水の音が頭に残っています。

避難した人たちは何時頃帰ってきましたか。

朝5時頃周辺の水は引け、6時頃から後片付けが始まりました。被災してない近所の人たちがみんな手伝ってくれ、数日で何とか片付いたようです。これだと思ったのは「共助」近所であるということでした。

また、ボランティアの人たち大勢に助け

いただいた、本当に地区民全員感謝しています。地区を代表してお礼を申し上げます。

今回の災害を受けこれからは、

堤防が完成して以来50年ほどになりますが、旧小学校の方から川の水があふれたのは初めてです。常日頃洪水や地震について、事あるごとに話をしてきました。少しは役に立ったかなと思います。今年、コロナのため地区民の飲食会はできずにいますが、これからも機会があれば、今回の水害について地区民に報告し、今後のことに役立っていきたいと思います。



取材を受けてくれた豊田区長芳賀清一さん。ご協力ありがとうございました。

10月6日インタビュー【記 小玉】

私達は、極力人の世話にはならず、迷惑はかけずと思いつつ生活している。しかしある限度を越えた時、個人の無力さを感じてしまう。気が挫け、投げやりになることもある。

こんな時、人々の励ましと手助けが必要になる。不安な心を取り除くために。7月の水害では、各区長、消防団員の方々は、住民と自分自身の安全との間に激しいジレンマもあったに違いない。御苦勞様でした。【記 小玉】